

エシカルに生きる

1. エシカル消費

右上は愛知県のポスター「エシカルxあいち」です。地球にやさしい消費で、未来を変えるそれが『エシカル消費』と謳っています。あまり耳にしない言葉ですが、エシカル(ethical)は「倫理的」とか「道徳的」という意味の英語の形容詞で直訳すると「倫理的な消費」となります。例えば、地球温暖化が叫ばれていますが、仮に電気にしてもCO₂を排出する火力発電もあれば、トータルな面でCO₂を排出しないバイオ燃料を使って発電する火力発電もあるという具合です。コストだけを見れば、石炭・石油などによる発電の方が安上がりですが、バイオ燃料を使う発電で温暖化の進行を止める効果が期待できるのです。このように、自分中心ではなく広く社会を見据え、そして、時間軸でも長いスパンの影響を意識した消費行動が必要になるという消費活動です。

例えば、グローバル化した社会ですが、賃金の安い国で物を生産して、それを輸入して物価を下げるデフレ現象を長年行って来ました。代表選手では「百円均一」という形態が誕生して比較的良い商品を気軽に活用できるようになり恩恵を受けています。この「百均」で見ると当初より品質が向上しており、生産側の技術向上が見受けられます。これらの技術向上で生産国も豊かになる事が倫理的にも望ましい状態です。

右下はSDGsの17項目ですが消費者庁のHPでは12番目の「つくる責任つかう責任」にも「エシカル消費」が該当するとの事です。HPによると「エシカル消費とは、地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動の事です。私たち一人一人が、社会的な課題に気付き、日々のお買物を通して、その課題の解決のために、自分は何ができるのかを考えてみる事、これが、エシカル消費の第一歩です。」とあります。大きなテーマですが、身近な行動に落とし込んで実践する事が重要との事です。



2. 逆転現象

しかし、このグローバル化した生産で安い労働力を求めて工場が海外に移転して、産業の空洞化が起きました。すなわち、若い人が国内で働く場所が減少したのです。労働力は製造現場からサービス産業へシフトするようになったのです。この結果、国内の製造関係の中小企業では高齢化が進み、近年のコロナや円安による原価アップに耐えられずに廃業を選択する傾向が強くなっています。また、流通業で見れば、輸入品の恩恵は一般の小売店に及ばずに、大手資本系の企業に集中して、いわゆる街の商店街は寂れる一方になっています。ショッピングセンターやチェーン店では大量仕入の恩恵があり、人が「より安く、より良い物」を求めて集中するようになっています。この結果、多くの個人商店が廃業しシャッター通り化しています。

つまり、グローバル化で「安い商品」が輸入されるようになり30年以上もデフレ経済が続いたのです。その間に、国内では企業間格差が拡大して「安い商品」の恩恵を受けられる企業とそうでない企業の格差が拡大し、その余波で所得格差も拡大したのです。その結果、年収300万円が社会問題化していますが、国内が貧困化する逆転現象が起こっているのです。政府はこの対策として職業移動を進めようとしていますが、地域に根差した企業の多くは「負け組」に属していて新規雇用を受け入れるキャパシティーがない状態です。折しも「円安」で物価高騰の波が来ていますが、所得アップが追い付かない状況なので多くの方々は厳しい経済状況に苛まれているのです。「豊かになる」その成長エンジンを見出す必要がありますが、至難の業という状況になっています。

3. エシカル消費

前述のように、グローバル化の影響で労働市場が縮小化が起こっており、本来なら「豊かさ」をもたらす筈が逆転現象で厳しい状況が起こっています。物価高騰の波が押し寄せて来るが給与所得が追い付かない現象が起こっており、個人として生活防衛が急務の課題になります。単純には価格がアップした分を他の事で補う必要があるのですが、生活必需品を単純に減らす訳には行かないのです。例えば、猛暑下ではエアコンは必需ですが、対策としては設定温度をアップしたり、小まめにフィルター清掃して効率化を高める工夫で光熱費を押さえる事が必要になります。これは、国が呼び掛けている事でもあるので生活防衛以上に立派なエシカル消費になると考えます。

エシカル消費とSDGsの12番目「つくる責任つかう責任」は相互に関係する物です。地球温暖化対策として脱炭素社会が叫ばれていますが、小さな動きとして「使い捨て」を減らす事が始まっています。例えば、レジ袋が有料化されてマイバッグを使用する方が増え、また、レジ袋も捨てずに再利用という流れが出ています。僅か数円のレジ袋ですが、これを減らす事で脱炭素化になり、さらには、再利用する事で節約にも繋がっています。この再利用は「つかう責任」と言えます。今まで石油関連の商品をふんだんに使って来たのですが、ちょっとした痛みが出ても工夫して対策を打てば再利用につながるのです。個人が行なう再利用が大きな意味でエシカル消費になります。

この意味で脱使い捨て文化には「良品」という視点が重要になります。この「良品」を選ぶ事が大切です。例えば、生地の良い衣服は洗濯を繰り返しても長く利用が出来る品質があります。「百均」の商品でも「安からう、悪からう」という商品の時代から「良品」で長く利用する時代に向かいつつあります。飲食でも回転ずしも同じ流れで、一皿110円でも結構おいしいネタがのってリピーター層が厚くなっています。

4. 個人としてのエシカル消費

「エシカル」は「倫理的」という意味ですが、前述のように「使い捨て」は前時代の物になって「良品」を長く使う、あるいは再利用する時代になって来ています。例えば、パソコンですが、購入時に価格勝負で低スペックの物を購入するとOSのバージョンアップに対応できなくなります。パソコンの「良品」の定義は難しいですが、バージョンアップ対策としてCPUの処理能力は有力な要素です。先のバージョンアップに耐えられるスペックを選ぶのは「エシカル消費」と言えます。また、「良品」を長く使うという視点では、飽きの来ないデザインという要素も重要です。自動車は移動手段ですが、公に晒すので一種の「見栄」の要素もあります。個人的にはSUV車を21年前に購入して、立体駐車場の立替問題もあって長く使用しています。SUVが時代の主流になりつつありますが同じSUV車なので満足して立体駐車場が解体されるまで乗る心算でいます。

また、結果的な事ですが事務所は賃貸事務所ではなく、25年前に1DKのマンションを購入して事務所風にリフォームして使っています。ローンは既に完済しており、管理費だけで利用できる状況です。796号でも触れましたが、昨年春にリノベーションして部屋の真ん中に広い空間を生み出しました。そこに赤点線のように作業テーブルを設置してコミュニケーションを図る場になっています。この作業台は左右に肘を伸ばす事が出来るタイプで、応接用のイスを合わせて8人が会合できる物です。現在、マンションの老人会に土日に提供してCafé ひまわり会を実施して楽しんで頂いています。茶話会の茶菓子準備などを行ない違った意味で楽しんでます。「倫理的な消費」という点では社会に貢献しているので十分に「エシカル消費」に繋がっていると確信しています。

